

平成 26 年度安全大会

1. 日 時;平成 26 年 4 月 18 日(金) 9 時～12 時

2. 場 所;自社会議室

3. 出席者;当社社員 34 名

協力会社 (株)湊電商工業様, (株)ユーテック様, 一葉土木工業様
来 賓 北海道電力(株)様, 北海電気工事(株)様

計 42 名

4. 内 容(要旨)

(1) 社長挨拶

- ・ 平成 25 年度は, 苫小牧地域の北海道電力様と北海電気工事様に於かれては無災害であった。長年の努力とトップの采配によるものだと思います。今後ともご指導願いたい。
- ・ 一方当社は, 残念ながら 1 件の労働災害が発生した。幸い, 不休傷ではあったが, 軽はずみな行動がいかに危険と隣り合わせであるのかを思い知ることとなった。この災害で得た知識と知恵を今後の全ての業務に反映させ, 無事故で工事を進めて頂きたい。
- ・ 本日の安全大会で得た知識を今後の業務へ役立てて頂きたい。



(2) H25 年度災害事例紹介

発注者様より提供頂いた災害発生状況分析結果や種々の災害報告の中から, 特に当社に関係深い内容について報告し理解を深めた。



(3) 健康づくり講座

協会けんぽ様より講師を招き「毎年受けていますか健康診査?」というテーマで講義を行い, メタボの仕組みや予防方法について学んだ。



(4) グループ検討会

昨今の工事では、事故の未然防止の観点から、安全監視者の重要性が高まっている。これを鑑み、安全監視者としての力量(自覚・重要性等)についてレベルアップしてもらふ意味から「自分が安全監視者だったらどうする？」をテーマとし、過去の事故事例を題材として検討会を行った。6班に分かれて検討会を実施し、各班より現場作業に直結した発表がなされた。



(5) 安全宣言・スローガン唱和

社員より、安全宣言が社長へ手渡された。その後、安全スローガン「一人ひとりの危険感受性を高めヒューマンエラーを撲滅しゼロ災を達成しよう」を参加者全員で唱和した。

なお、今回の安全宣言、安全スローガンは、毛筆による直筆であり、心構えが存分に伝わるものであった。



(6) 来賓挨拶

① 北海電気工事様

- ・ 労働災害は、仕事慣れしてきた経験年数 10～15 年層、体力的衰えが感じられるベテラン 30 年層に多い傾向が見られる。
- ・ 北海電気工事では、危険感受性を高めることを安全活動の重点としている。指差呼称、復命複唱、総合監視能力向上、ヒヤリハット共有により、事故から未然に労働者を守ることを目指す。
- ・ また、今回のような安全研修活動により意識や風土を向上させることが大切。是非継続して頂き、事故未然防止をお願いする。



② 北海道電力様

- ・ 事例検討会において“一旦作業の流れをストップさせる”“指差呼称・総合確認の実施”といった「一呼吸置く」旨の発表があった。非常に大切なことである。工事では、どこかで一旦ストップしておけば防げた災害が多々ある。
- ・ 今年度から「it stop 活動」を実践する。おかしいな？ 危険だな？ と感じるがあった場合、その流れを一旦断ち切り、事故を未然防止する。今年度も無事故をお願いする。

